

小木裕文教授のご定年にあたって

今年度、国際関係学部・研究科の教学・研究にご尽力されてきた小木教授がご定年を迎えられます。次年度も全学のハラスメント防止委員会委員長という重責を担われることが決定していますが、いちおう、一区切りをつけられたということで、これまでのご貢献に対する心からの感謝の意味を込めて、小木教授の教育・研究における足跡をたどるとともに、これを私たち国際関係学部教職員が、学部・研究科の発展に邁進するうえでのかけがえのない糧とさせていただきます。

小木教授は、1988年の学部創設とともに本学に赴任され、四半世紀以上にわたって国際関係学部・研究科と歩みをとともにされました。国際関係学部赴任後は、学部と大学院で演習を担当され、多くの有能な人材を日本や世界に送り出しました。専門科目では、「文化交流論」や「東アジア研究」を担当され、学生とのコミュニケーションを重視されるその授業スタイルは定評があり、キャリア形成、就職活動に関する指導にも熱心に取り組んで来られました。

小木教授の大学行政面の貢献は絶大といえます。学部では1992年度に学生主事に就任されたのを皮切りに、研究科主事、副学部長、2004年度から2006年度には学部長に就任され、学部の発展に貢献されました。全学役職では、国際インスティテュート教学委員長、立命館孔子学院院長代理、ハラスメント防止委員会副委員長、さらに2013年度には国際戦略担当の副総長に就任され、スーパーグローバル大学創成支援プログラムへの本学の採択のためのキーパーソンとしてご活躍なさいました。

研究面では、中国研究者として、文学、文化、華人研究と幅広い分野で業績を残されています。とりわけ華人研究では、中国（福建省、浙江省、黒龍江省など）、香港、シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、台湾など幅広い地域で調査・研究をすすめられて単著の『シンガポール・マレーシアの華人社会と教育変容』（光生館1995年）をはじめたくさんの業績を残されています。華人研究の第一人者として日本華僑華人学会では監事、一般理事、常任理事を歴任され、学術雑誌『新世紀学刊』（シンガポール）の編集顧問を担当されるなど国際的に活躍されています。

小木教授は、あたたかく穏やかなお人柄と幅広い見識で、まさしく影に日向に国際関係学部を導いてこられたといえます。個人的には、私が2年前に学部長に就任したおりに、不慣れな常任理事会などで小木教授が参席されていることで心強い思いをさせていただくことも少なく、学部運営や全学との対応でもこの間、たくさんのアドバイスや協力をしていただきました。

あらためて心からの感謝を述べるとともに、今後もご健康でなお一層ご活躍されることを祈念いたします。

2015年3月

立命館大学国際関係学部長 文 京 洙

